

日頃から本校の進路指導にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

● 昨春卒業生の受験結果（2019年度入試）

昨春の合格者内訳は、国公立大学58名、私立大学265名、短期大学4名、専修・専門学校6名、就職1名、海外の大学1名です。四年制大学については、国公立、私立ともに2018年度入試よりも多い合格をいただくことができました。旧帝大（東京大学、東北大学）、国際教養大学、医学部医学科等の難関大学、また私立大学については首都圏大学の合格者絞り込みが緩和されたように感じております。詳しくは矢板東高校ホームページの「進路室より」をご覧ください。こちらのホームページには、受験結果の他にも、校内での行事や県外で行われた講演会・ワークショップの報告も載せております。お時間のあるときにご高覧頂ければ幸いです。

進路室よりホームページ



● 2019年度の挑戦

▼ リンガスキル

これは、CBT (Computer Based Testing) 版ケンブリッジ英語検定です。4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）それぞれの分野毎にオンラインで問題が出題され、受験生はキーボード、マウス、マイクを通じて解答します。生徒の解答状況に応じて問題数や難易度が個別最適化されるので、幅広いレベルの語学力を測ることができます。評価にはCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）が用いられ、4技能別評価と総合評価が約10日後に返却されます（CEFRについて詳しく知りたい方は、Googleで検索してください）。日本航空等の国内企業やエールフランス、香港上海銀行等海外企業における社員教育でも活用され始めております。AI（人工知能）や情報通信技術が加速度的に発達するこれからの時代、CBTはますます広がっていくと思われれます。現にOECD（経済協力開発機構）が行っているPIISA（生徒の学習到達度調査）にはCBT形式が採用されています。大学入試センター試験（来年度から大学入学共通テストと改称）もいずれCBT形式になるだろうと予想しております（解決すべき課題はありますが）。時代を見越しての挑戦です。

▼ GST (Generic Skill Test)

この呼称は本校独自のものです、採用しているのは河合塾が開発した「学びみらいPASS」というアセスメントテストです。現高校1年生から導入し、年次進行して2021年度に全学年に導入する計画です。文部科学省が進めている高大接続改革の議論の中に「学力の三要素」というフレーズが登場します。これは次のように定義されています。

① 知識・技能の確実な習得

② (①を基にした) 思考力、判断力、表現力

③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

この「学力の三要素」と、生活パターンや職業適性、文理傾向の「志向性」を測ります。特に注視していききたい点は、三要素の②と③の変容です。このアセスメントでは、②に対応する力を「リテラシー（知識を活用して課題を解決する力）」、③に対応する力を「コンピテンシー（経験を積むことで身についた行動特性）」と呼び、二つを合わせて「ジェネリックスキル」と称しています。アセスメントの結果から、生徒は自分の強みと弱みを把握し、その後の行動計画を考えます。教員は教科試験の点数や偏差値による生徒一人ひとりの把握に加え、リテラシーとコンピテンシーという「新しいものさし」による生徒理解に努めます。さらに生徒集団としての特性を知ることのできるのも、新学習指導要領で謳われているカリキュラム・マネジメントの視点から、教育計画の立案にも役立てることが出来ます。データによる可視化で、教員生徒各自に考える材料を提供します。

● **これからの矢東生が生きていく時代**

キーワードは「VUCA」と「定年消滅」です。VUCAとは、「Volatility（不安定さ）」、「Uncertainty（不確実さ）」、「Complexity（複雑さ）」、「Ambiguity（曖昧さ）」の頭文字からなる造語で、あらゆるものをとりまく環境が複雑性を増し、将来の予測が困難になった状態」（出典：VUCA変化の時代を生き抜く7つの条件 柴田彰・阿部雅仁・加藤守和著 日本経済新聞出版社）のことを指します。「定年消滅」については、以下の本をお読みいただくとよろしいかと存じます。

藤守和著 日本経済新聞出版社



（ ）のことを指します。「定年消滅」について

ては、以下の本をお読みいただくとよろしいかと存じます。

定年消滅時代をどう生きるか 中原圭介著 講談社現代新書



昭和、平成の成功体験は通用しにくい（通用しないと言ってもいい）現代です。しかし、大人たちは自分の「成功ものさし」を基準にして若者に語りがちです。もちろん不易な部分もあります。しかし、技術は日々進化し、新しい学術的知見も蓄積されてきております。価値観も昭和のバブル期から30年以上も経てば変わります。トレンドに対する順応力が高い若者たちから得るものも少なからずあります。前出のQRコードもその一つです。キーボード世代の私はこれまでURLを載せていました。それを見た本校の若手教員に「今はスマホの時代。QRコードですよ。」と言われ、衝撃を受けました（私はガラケーの人間なので）。とても小さなことですが、今年度新たに得た学びです。

● 求められるのは「学ぶ」「学び続ける」「学び直す」資質と態度

私たちは加速度的に変化する現代社会において、知識のアップデートをする必要があります。最近の大学の学びは「学び方を学ぶ」色合いが以前より濃くなっていると思います。九州大学共創学部や新潟大学創生学部がその代表例です。大学で過ごす時間よりも、卒業した後の時間の方がはるかに長い。人生の節目では新しいことを学び直す場面も出てくるでしょう。今春卒業する矢東生には、次のステージでその礎を築くことを切に願います。そして、すでに社会人として活躍している大人たちへ。

「終身雇用を前提にすることが限界になっている。」（経団連 中西宏明会長）

「雇用を続ける企業などへのインセンティブがもう少し出たこないと、なかなか終身雇用を守っていくのは難しい局面に入ってきた」（トヨタ自動車 豊田章男社長）

このような時代です。所属組織において、どのような価値を創造することができるか、提供することができるか。そのためには学ぶこと、学び続けることが必要です。今の組織にいても新しい組織に移っても、仕事が変わったら学び直すことも必要です。あなたの後ろを歩いている若者たちはあなたの背中を見えています。